



ROYAL
HOLLOWAY
UNIVERSITY
OF LONDON



長崎県立大学
UNIVERSITY OF NAGASAKI

情報セキュリティの経済学的側面

— ロンドンの大学教員・ゲーム理論研究者が語る夕べ —



参加費
無料

通訳
付き

日時：平成29年12月15日(金)17:00-18:00 (16:30開場)

会場：長崎県立大学 シーボルト校 中央棟 M103講義室

講演タイトル

(英語での講演を逐次通訳します)

A Model for Secure and Mutually Beneficial Software Vulnerability Sharing in Competitive Environments

(競合環境における安全で相互に有益なソフトウェア脆弱性情報共有モデル)

講演者 Carlos Cid教授, ロンドン大学 ロイヤルホロウェイ



二つの競合する企業の一方が、コストをかけてサイバーセキュリティに関する知見を見出したとします。このとき、その知見をその企業の秘密として活用するのがよいのでしょうか？それとも、部分的に開示し、相手から見返りに更なる知見をもらえることを期待するほうがよいのでしょうか？このような駆け引きのある状況はいわゆるゲーム理論で扱うことができます。

本講演では、ソフトウェアの脆弱性情報を対象に経済学的なゲーム理論を用いた研究成果をCid教授が紹介します。研究においては、脆弱性の調査にどれだけ投資すべきか、また、調査結果をどの程度情報共有すべきかを数学的に扱います。特に、数学の概念である"完全ベイジアン均衡"という特徴を描写していきます。さらに、企業が合意した一定の値まで平等に情報を開示し合う"プライベートセットオペレーション"なるプロトコル(やり取り)を説明します。

Carlos Cid 教授

1999年にブラジリア大学にて博士号を取得(数学)。アーヘン工科大学(ドイツ)でポスドク、アイルランドでネットワークセキュリティエンジニアとして働いた後、2003年よりロンドン大学ロイヤルホロウェイの情報セキュリティグループに加わり、2014年より教授。2013年より同大学サイバーセキュリティ博士トレーニングセンターの責任者を務める。専門はサイバー経済学、暗号学。

■主催：長崎県立大学 情報システム学部 情報セキュリティ学科

■Webサイト：<http://sun.ac.jp/event/65638/>

■お問合せ：担当 穴田啓晃(情報セキュリティ学科教員)

gakujutsukouen-sec@sun.ac.jp

■お申込み：以下のメールアドレスにお申し込みください。

(当日参加も可) gakujutsukouen-sec@sun.ac.jp

